

食虫植物について

食虫植物とは

食虫植物とは、花をつける植物の仲間、普通の葉とはかなり形の違う葉を作って、小さな動物を捕まえ、その動物を消化し食べて栄養をとる植物をさします。この普通の葉と違う葉は、捕虫葉(ほちゅうよう)といいます。

小さなネズミなども捕まえて食べる食虫植物があるので、正確には食肉植物というのが正しいのですが、ここでは、皆がよく使う食虫植物という言い方をしておきます。ちなみに、英語ではcarnivorous plantといい、日本語にそのまま訳すと「食肉植物」となります。


人は、ご飯を食べると、お腹の中で食べたものから

栄養(えいよう)を取りだすためのものを出し、ご飯にまぜ、ご飯からの栄養を体の中に取りいれます。この栄養を取りだすためのものを「消化酵素(しょうかこうそ)」といいます。食虫植物は、この消化酵素を自分で作るか、捕虫葉の中でとても小さな生きものを育て、その生きものが作る消化酵素を使って、動物から栄養をとることができるのが、ほかの植物との大きな違いです。

どのような場所にいるか

では、食虫植物は、どのような場所に生えているのでしょうか。その前に、なぜ、動物を食べなくてはならないのかを考えてみましょう。食虫植物は、虫が好きだから食べているのでしょうか。実は、食虫植物は、土の中に栄養(えいよう)があまりない場所によく見られます。というのは、食虫植物は、土から栄養が取れない分を虫からとっているのです。そのような土に栄養が少ないところを好きな植物は、それ

(赤い丸の中が捕虫葉で、この中に虫を捕まえます。)



モウセンゴケの捕虫葉
(ヒゲのように見える部分に、ネバネバしたものをだし虫を捕まえます。)
<http://had0.big.ous.ac.jp/~hada/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/droseraceae/mousengoke/mousengoke.htm> より

タヌキモの捕虫葉
赤い丸の中が捕虫葉で、この中に虫を捕まえて食べます。
(<http://www.eonet.ne.jp/~takecho/syokubutu/tanukimo.htm>)



湿原でのタヌキモ(左)と花(右)。湿原とは、水のたくさんたまったところを言います。
(<http://www.botanic.jp/plants-ta/tanumo.htm>)

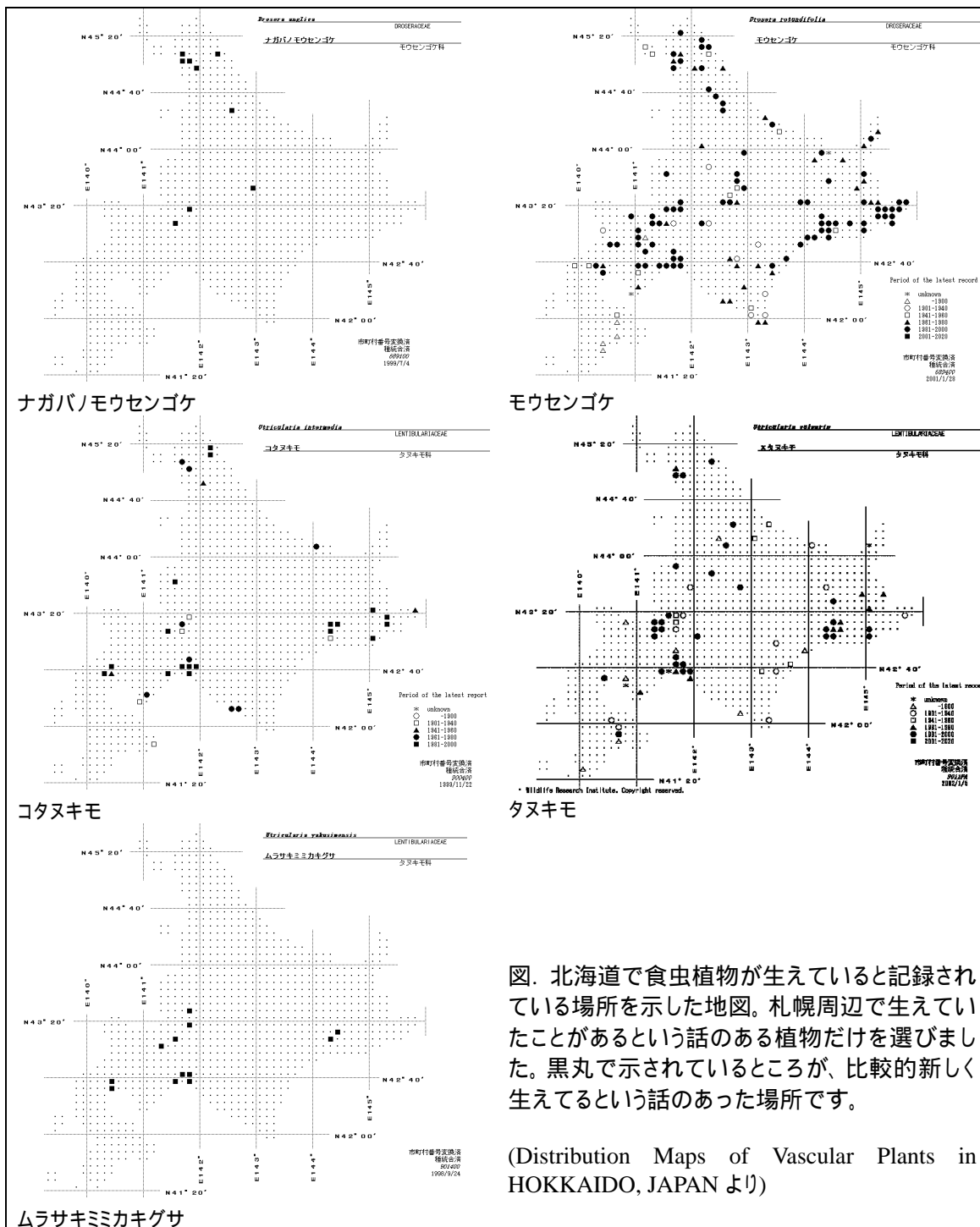
モウセンゴケの全体(左)と花(右)。
<http://had0.big.ous.ac.jp/~hada/plantsdic/angiospermae/dicotyledoneae/choripetalae/droseraceae/mousengoke/mousengoke.htm> より

ほど多くはないので、ほかの植物を気にせずにつることができます。

そのようなことから、食虫植物は、ミズゴケ泥炭地と呼ばれる雨水からしか栄養をもらえないような場所や、砂浜(すなはま)、火山のガラガラ石のところなど、とても土に栄養が少ない場所に生えていることが多いわけです。

北海道にいる食虫植物

北海道で見られる食虫植物は、モウセンゴケの仲間、タヌキモの仲間などです。雪が解けたら札幌



でも食虫植物はことはできます。

北海道で食虫植物の生えている地域を示した地図があります。このような地図を分布地図といいます。そのうち、札幌周辺で生えている、あるいは、生えていたという記録がある食虫植物の分布地図を選んで、前のページに示しました。この地図では、正確な場所を知ることはできませんが、もっと正確な場所を書かなかった理由が2つあります。1つは、この地図などを使って自分で探す方が勉強になること、もう1つの方がもっと大事なのですが、このような場所で観察することは、とても大事なことです。その時に気をつけなくてはならないことがあります。

食虫植物は多くが絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)

食虫植物は、土に栄養が少ないところに多いのですが、日本で、土に栄養が少ないところは、そんなにたくさんあるでしょうか。答えは、「そんなにたくさんはない」です。北海道では、昔から開拓(かいたく)といって、田んぼや畑をたくさん作りました。その時から今までに、多くのミズゴケ湿原は、田んぼや畑になったり工場が建てられたりして、とても少なくなりました。海岸も自然のままのところは少なくなりました。その結果、食虫植物が育つことができる場所は、今では、あまり多くはありません。

「レッドリスト」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、世界中で、このままだと近い未来に、その生きものは地球上からいなくなってしまうと考えられている生物の名前を記録したものです。そのリストに書かれている生物の多くが「絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)」と呼ばれています。リストを見ると、図に示した5種類の食虫植物の中で「ナガバノモウセンゴケ」、「タヌキモ」、「ムラサキミカキグサ」の3種類は絶滅危惧種です。

たとえ札幌で食虫植物をみつけたとしても、すぐに、それをもって家に持って帰るべきではありません。観察するだけにして、食虫植物は、その場所に、そっとしておいてあげましょう。

では、どうやって調べるのがよいたろうか

これは、一つの提案ですが、育てて観察したいのならば、お花屋さんに行きましょう。食虫植物は、その変わった葉の形から観葉植物(かんようしょくぶつ)と呼ばれる葉を見て楽しむ植物が多いので、これらの植物を家で育てて楽しむ人がたくさんいます。

そのため、食虫植物を売っているお花屋さんがあります。それらの食虫植物は、もともとは、自然に生えていたものですが、それを温室とかで育てて増やしたものがほとんどですので、自然の中から食虫植物が減っていくことにはあまり関係しません。電話帳などで、お花さんを調べ、電話で聞いてみるとよいでしょう。お花屋さんでは、水はどの位あげるのかとか、肥料は必要なのかとか、虫はあげなくていいのかとか、花はいつ頃咲くのか、と育て方などを良く聞くと、食虫植物がどのようなものなのかをもっと知ることができます。

また、北大植物園の温室でも、少しですが食虫植物を見ることができます。



ミミカキグサのこけ玉

ミミカキグサの鉢植え。(土のように見えるのがミズゴケです。)